

就中、明治三十四年新古美術品第七回展に發表せる「法塵一掃」(金牌授與)、同三十六年第五回内國勸業博覽會出品の「孤猿叫雪」(二等授與)は、氏の前期を代表すべき作品である。文展、帝展には殆んど毎回出品したが、殊に「雪松圖」(文展第二回)、「鹽原の奥」(文展第三回)、「清流香魚」(文展第六回)等が知られてゐる。猶晩年の作としては、御用畫六曲屏風「湘南の海」、御大典御用「主基齋田風俗繪御屏風」等がある。

氏はその前期の作品に「法塵一掃」の如き人物畫あるも、専ら山水畫に專念し、洋畫を加味せる自然觀照によつて、或は深山を、或は幽谷を捉へ來り、その躍動する筆格によつて、獨自の境地を拓いた。しかも、氏は早苗會の主宰者として、後進を統率し毎歲展覽會を開催し來つたが、今氏を失つたことは京都畫壇の爲のみならず、我現代畫發展のため惜みて餘りあるものがある。(隈元)

## 美術研究所時報

○主事矢代幸雄氏は、既報の如く昨年十一月出發、米國ハーヴァード大學に於て、東洋美術に關する講義をされてゐたが、過般講義を終了し、去る七月六日無事歸朝せられた。

○美術懇話會は七月一日美術研究所に於て開催、東京、横濱、千葉、茨城、静岡、愛知等の諸地方に散在する渡邊華山及椿椿山筆肖像畫を借用陳列し、美術研究所員菅沼貞三氏より陳列品に關する講話を聞いた。この陳列品中華山作品に就ては本誌第十八號所載菅沼貞三氏の「華山の肖像畫」中に解説されてゐる所である。

尙美術研究所では翌二日此陳列品を公開して研究者の觀覽に供したが、入場者百六十餘名を數へた。

○美術研究所談話會は七月十四日美術研究所に於て開き、目下歸朝中のメトロポリタン美術館極東美術部の石澤正男氏の「メトロポリタン美術館蒐集品の紹介」を聞いた。

## 寄贈新刊圖書

日本國寶全集 第五三、五四輯	文部省
京都社寺名寶鑑 大徳寺篇一	芸艸堂
李王家博物館所藏品寫真帖 繪畫之部	李王職
あばろ 奥村綾子譯	奥村伊久良氏
有史以前の人類(先史學概論) ド・モルガン著 成田重郎譯	鳥居龍藏氏
La conservation des monuments d'art et d'histoire. Office International des musées.	
W. Norman Brown: The story of kolaka. (Oriental Studies. no. 1)	Freer Gallery of Art.

大正大學學報 第十五輯	塔影 九ノ五、六
建築雜誌 五七二、五七三	帝國工藝 七ノ四、五
思想 一三四	美術新論 八ノ七
美術界 三ノ六、七	車の中 一
博物館研究 七ノ五、六、七	帝國圖書館報 廿六ノ二
Bulletin of the Honolulu Academy of Arts, Vol. 1. 2.	
Bulletin of the Metropolitan Museum of Art, Vol. XXVIII No. 5. 6.	
The University Museum Bulletin, Vol. IV No. 4.	
Bulletin of the Cleveland Museum of Art, May 1933.	
British Museum Quarterly, Vol. VII No. 4.	
The Museum Journal (University Museum, Philadelphia), Vol. XXIII. No. 3.	
Bulletin de la Maison Franco-Japonaise, Tome IV Nos. 1-4.	
Wiener Beiträge zur Kunst und Kultur Asiens, VIII. Jahrg. 1931-32.	
Si mica, VIII. Jahrg. Heft 3.	
Beaux-Arts, No. 19-23.	